

<別紙2>

・阪神甲子園球場における環境への取組みについて

プラスチックカップの回収及びリサイクル	
<p>2012年から帝人フロンティア(株)と共同で、球場内で提供しているポリエステル製のビール用プラスチックカップを回収し、再生ポリエステル繊維や樹脂にリサイクルする取組みを行っています。リサイクル再生ポリエステル製品は、来場されるお客さまへの配布物などに活用しています。</p>	
ツタによる壁面緑化	
<p>当球場開設当初に植えられ、球場の名物の1つともなっている「ツタ」の壁面緑化により、ヒートアイランド現象の緩和や空調効率の改善につながっています。</p>	
球場銀傘への太陽光発電設置	
<p>2007年～2009年に実施したリニューアル工事に伴い、新しくなった銀傘に設置された太陽光発電装置により、年間193,000kwhを発電しています。これは、阪神タイガースが1年間に阪神甲子園球場で行うナイトゲームで使用する照明の電力量に相当し、火力発電に比べてCO₂排出量を年間で約150トン削減することが可能です。</p>	

井水・雨水のグラウンド散水及びトイレ洗浄水への利用

球場敷地内の井戸からくみ上げる井戸水に加えて、2009年のリニューアル工事以降、銀傘に降る雨水を地下タンクに貯め、グラウンドへの散水やトイレの洗浄水として使用しており、これにより、球場が年間に使用する水量（約66,600 m³）の約65%を賅っています。



飲食包材のバイオマス素材への変更

球場内売店で使用しているプラスチック製の容器・包材（現在、プロ野球時で全販売点数のうち約60%に使用）を、紙をはじめとするバイオマス製品に変更し、プラスチック使用量の削減を進めています。

【具体例：甲子園3大グルメ】

甲子園焼き鳥はリニューアル以前から紙包材を使用しており、甲子園やきそばは2020年10月から、甲子園カレーは2021年から紙包材に変更し、3大グルメ包材全てのバイオマス素材への変更を終えています。



カーボン・オフセット試合の開催

阪神甲子園球場では、太陽光発電の利用や節電施策の実施、球場内照明のLED照明への切替えなどにより、CO₂排出量の削減に努めています。今般、阪神タイガース主催による公式戦6試合を、J-クレジット制度を活用することで、当該試合の開催に伴うCO₂排出量を実質ゼロとする「カーボン・オフセット試合」とします。

【カーボン・オフセットの概要】

